取扱説明書

特定小電力トランシーバー

IC-4007

Icom Inc.

目　次

はじめに

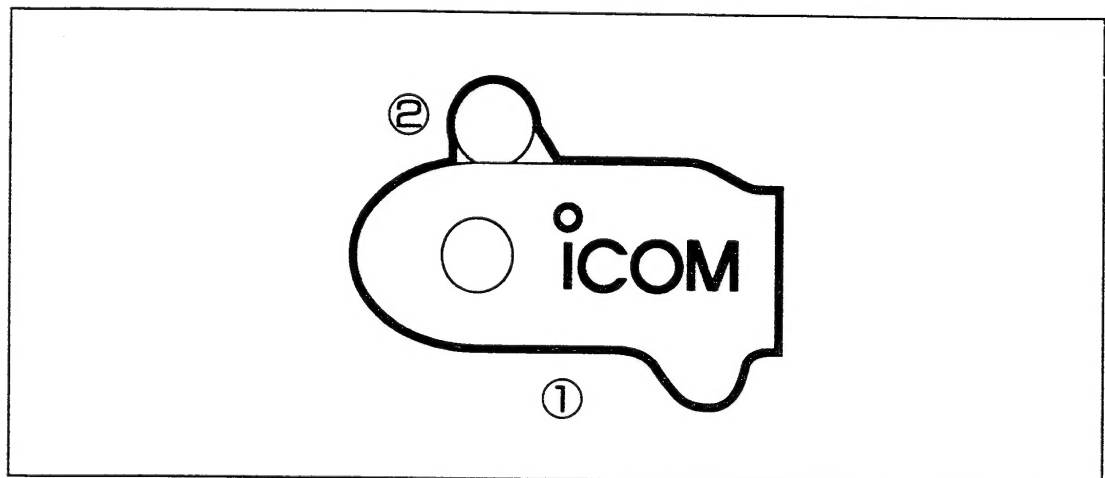
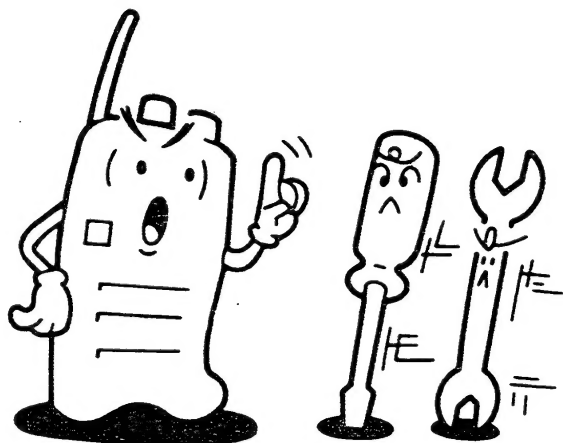
このたびは、IC-4007をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、「特定小電力無線機」および「技術基準適合証明を受けた無線局」として認定された特定小電力トランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくと共に、末長くご愛用くださいますようお願い申しあげます。

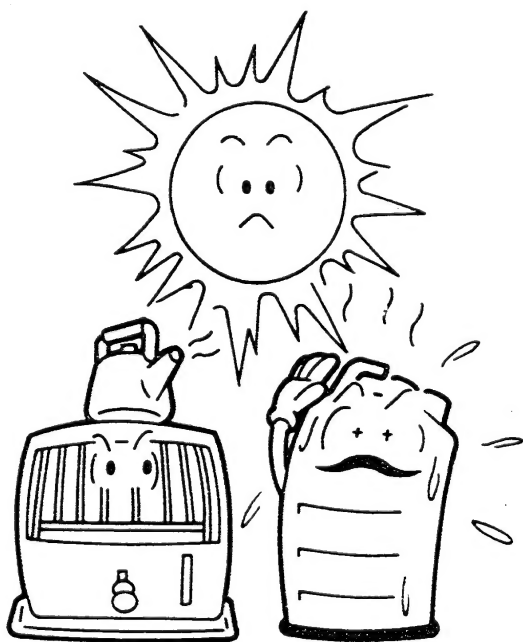
付 属 品

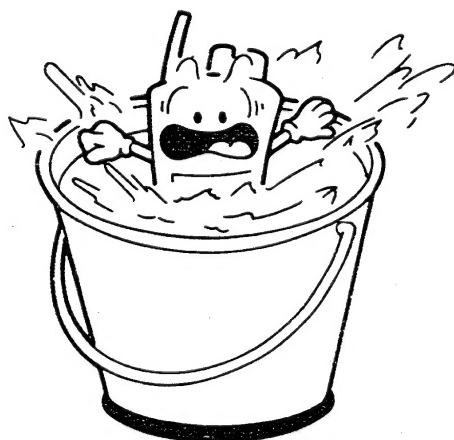
①ベルトクリップ……………………………………1
②取り付けネジ………………………………………1
●取扱説明書
●保証書

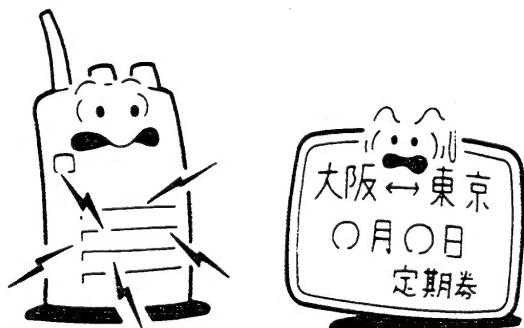
1　取り扱い上のご注意

分解したり、改造しないでください。

電波法で禁じられています。

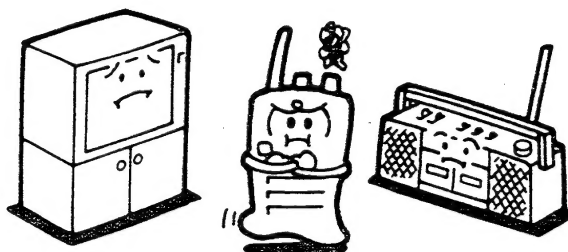
使用できるのは、日本国内に限られています。

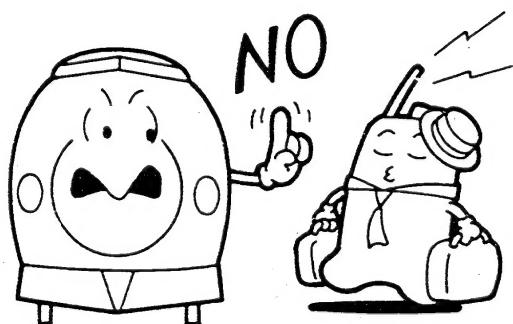
法律の異なる海外では使用できません。

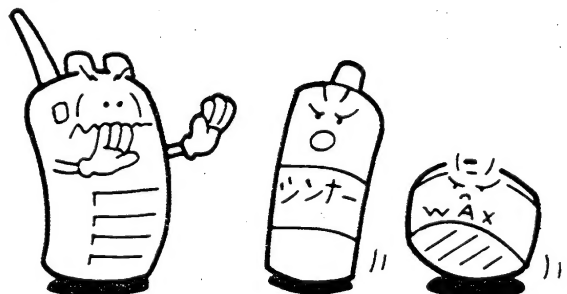
直射日光のあたる場所や高温、多湿、ホコリの多い場所に放置しないでください。

故障の原因になります。

絶対水のなかに入れないでください。

本機はJIS保護等級4防沫形を施していますが、水につけると故障の原因になります。

キャッシュカードや定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近付けないでください。

スピーカー内部の磁気による影響で磁気データが損なわれ、使用できなくなることがあります。

テレビ、ラジオなどの電気製品や、コンピューター、ワープロ、電話機などのOA機器から離れてご使用ください。

これらの機器の近くで使用すると、電波妨害をあたえたり、受けたりすることがあります。

民間航空機内、新幹線車両内などでは、原則として使用しないでください。

必要の場合は、管理者の承認を得るようにしてください。

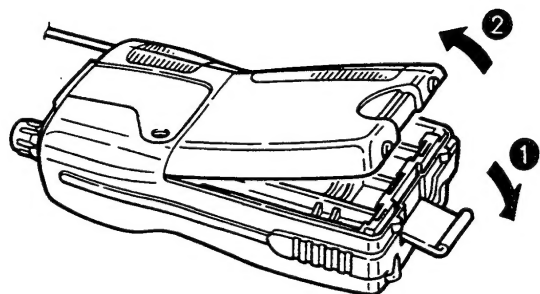
普段のお手入れは、やわらかい布でしてください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませて、拭いてください。

シンナー、石油、ベンジン、ワックスなど

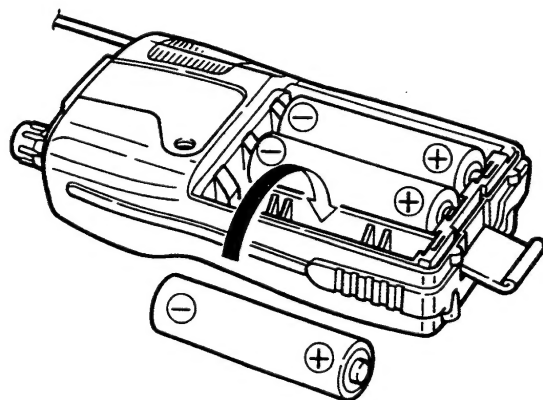
本体の印刷が消えたり、色あせたり、傷ついたりしますので、上記のものは、絶対に使用しないでください。

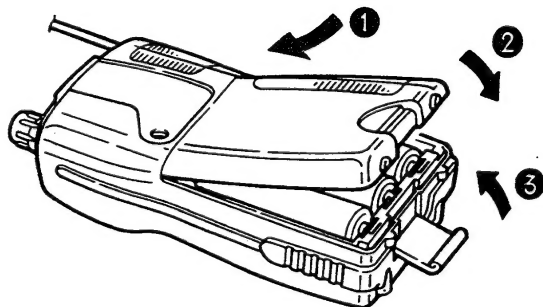
2 ご使用前の準備

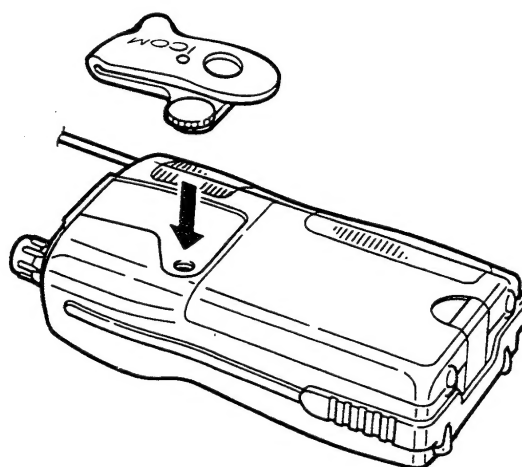
1 電池カバーを開ける

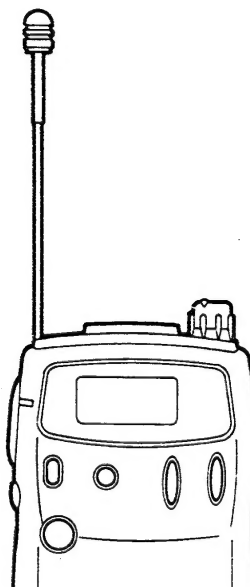
❶電池カバーのロックレバーをはずします。
❷電池カバーをはずします。

注. 防滴構造のため、ロックレバーがきつくなっていますので、ご注意ください。
コイン等をご使用ください。

2 乾電池を入れる

市販の単3形乾電池を3本用意し、プラス⊕とマイナス⊖をまちがえないように注意して入れます。

3 電池カバーを閉める

❶電池カバーのツメを本体のツメ受部に差し込みます。
❷電池カバーを閉めます。
❸ロックレバーを戻して、電池カバーをしっかり固定します。

4 ベルトクリップを取り付ける

付属のネジで取り付けます。

5 アンテナを引き出す

本機採用の収納式アンテナは、完全に引き出した状態でご使用ください。
また、収納するときは完全に収納してください。
それ以外の状態では、呼び出されても受信できませんのでご注意ください。

〈電池についてのご注意〉

①充電式単3形ニッカド電池は、電圧のバラツキや接触抵抗によって、発熱したり液もれすることがありますので、絶対に使用しないでください。

②乾電池を交換するときは、すべて同じ種類の新しい乾電池と交換してください。
異なる種類の乾電池や使用済みの乾電池と混用すると、乾電池の寿命が短くなります。

3　各部の名称と機能

■前面/上面操作部

スピーカーマイクロホン取り付け部
　別売品のHM-74、HM-75、HS-85などを取り付ける部分です。（☞P33，35）

電源スイッチ/音量調整ツマミ
　電源の"ON/OFF"を切り替えるスイッチと、音量を調整するツマミです。

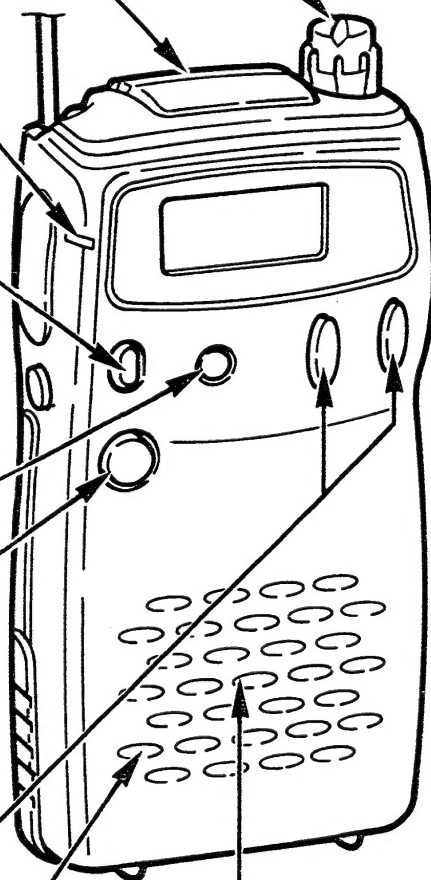
送信/受信表示ランプ
　送信/受信/待ち受けの状態を表示するランプです。

MEMO(メモリー)スイッチ
　通常チャンネルモードとメモリーチャンネルモードを切り替えるスイッチです。（☞P30）

SET(セット)スイッチ
約1秒以上押すとセットモードになります。（☞P11）

LIGHT(ライト)/LOCK(ロック)スイッチ
　1プッシュするとライトが点灯し、5秒後に消灯します。点灯中に1プッシュすると消灯します。（☞P27）
　約1秒以上押すごとにロック機能が"ON/OFF"します。（☞P29）

UP(アップ)/DOWN(ダウン)スイッチ
　通話チャンネルをアップ/ダウンさせるスイッチです。（☞P8）

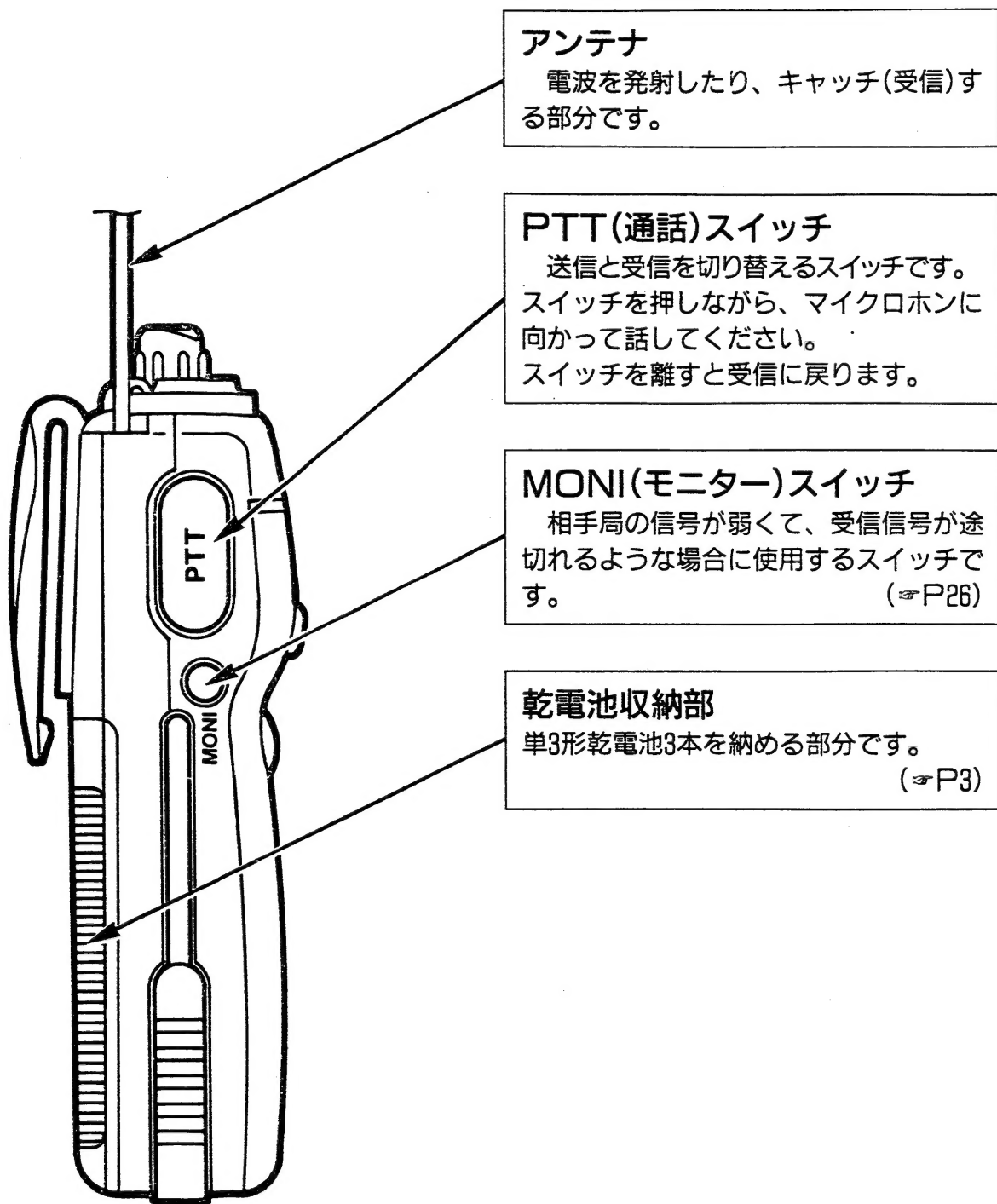
内蔵マイクロホン
　超小型のエレクトレットコンデンサーマイクが内蔵されています。

内蔵スピーカー
超小型のスピーカーが内蔵されています。外部スピーカーを接続したとき、内蔵スピーカーは鳴りません。

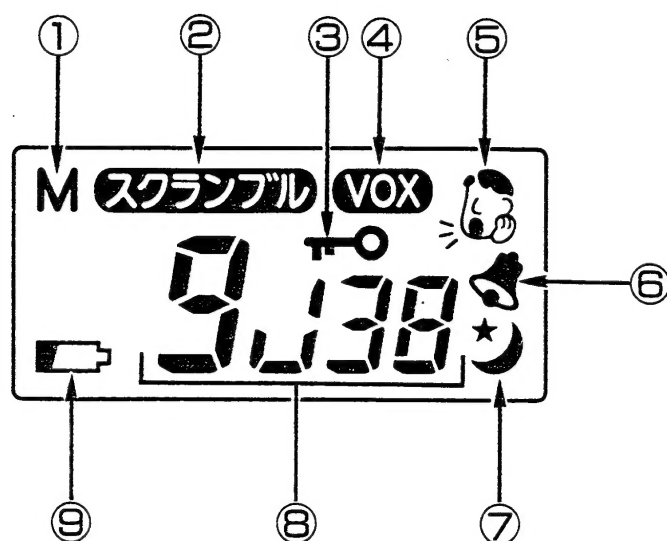
■側面操作部

アンテナ
電波を発射したり、キャッチ(受信)する部分です。

PTT(通話)スイッチ
送信と受信を切り替えるスイッチです。スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話してください。
スイッチを離すと受信に戻ります。

MONI(モニター)スイッチ
相手局の信号が弱くて、受信信号が途切れるような場合に使用するスイッチです。 (☞P26)

乾電池収納部
単3形乾電池3本を納める部分です。 (☞P3)

3　各部の名称と機能

■ディスプレイ部

①メモリー表示	メモリーチャンネルを使用しているときに点灯します。（☞P30）
②スクランブル機能表示	スクランブル（秘話）機能を使用しているときに点灯します。（☞P15）
③ロック機能表示	ロックされているときに点灯します。（☞P29）
④VOX機能表示	VOX（ボックス）機能を使用しているときに点灯します。（☞P23）
⑤コールエンド機能表示	コールエンド機能を使用しているときに点灯します。（☞P17）
⑥ポケットビープ機能表示	ポケットビープ機能を使用しているときに点灯します。（☞P21）
⑦オートパワーオフ機能表示	オートパワーオフ機能を使用しているときに点灯します。（☞P28）
⑧チャンネル表示	通話チャンネル（☞P8）、コード番号（☞P11）、グループ番号（☞P13）、メモリーチャンネル（☞P30）を表示します。
⑨バッテリー残量表示	電池の容量がなくなると点灯します。（☞P29）

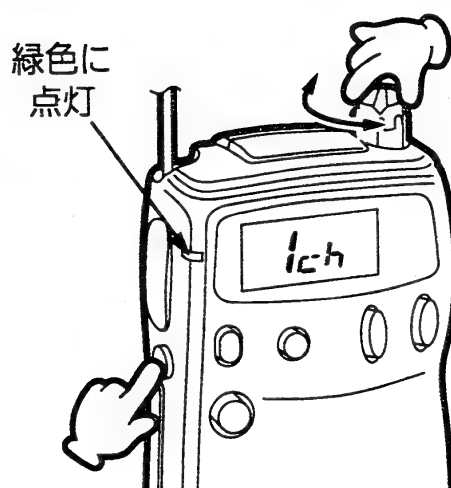
1　電源を入れる

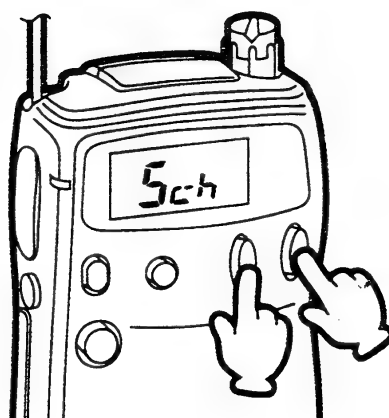
電源スイッチを時計方向に回します。

●ディスプレイにチャンネル表示が点灯します。

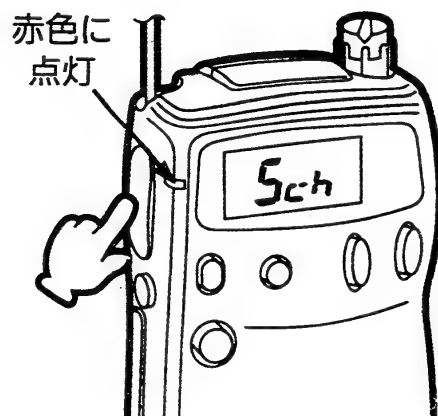
2　音量を調整する

音量調整ツマミを回します。
信号を受信していないときは、MONIスイッチを押しながら音量ツマミを回して、調整します。

●MONIスイッチを押している間、送信/受信表示ランプが緑色に点灯して音が出ます。

3　通話チャンネルを合わせる

UP(アップ)またはDOWN(ダウン)スイッチを押します。
通話相手とチャンネル(1〜9)が合っていなければ、交信できません。
同じチャンネル番号にします。

4 送信する

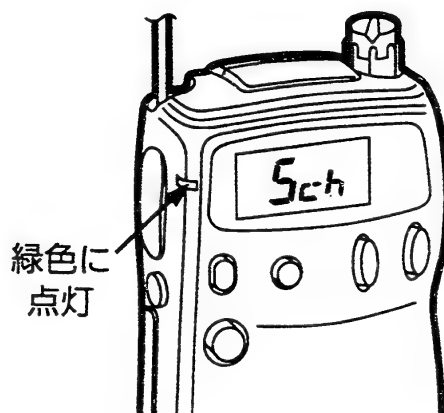
PTT(通話)スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、通話相手を呼び出します。
呼び出しが終わったら、PTTスイッチから指を離し、受信状態に戻します。

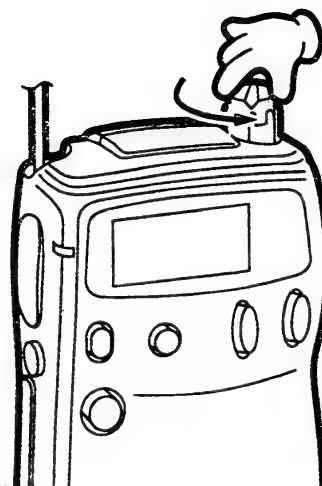
- 送信中は送信/受信表示ランプが赤色に点灯します。

注.電源スイッチ"ON"後、約2秒間は送信できません。

5 受信する

電波を受信すると、相手局の声が聞こえます。

◎相手の声が途切れるときはモニター機能を操作してください。
(☞P26)

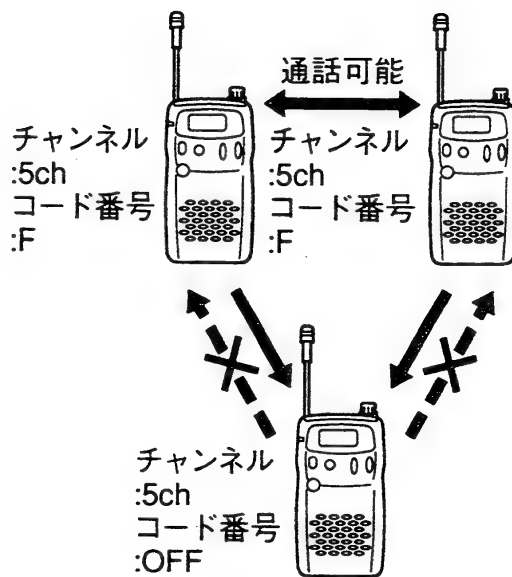
- 信号を受信すると、送信/受信表示ランプが緑色に点灯します。

6 電源を切る

電源スイッチを反時計方向に回します。

〈交信時のご注意〉

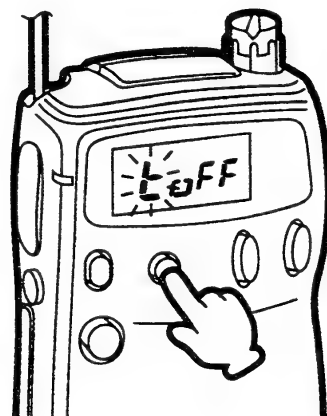
①通話時間について	連続して通話できる時間は、3分以内と「電波法」に定められています。 通話時間の終了する10秒前に“ピー”という音が鳴ります。 通話時間を過ぎても送信していると“プップップッ…”という連続音が鳴って、自動的に通話が終了します。 また、3分以内であっても、2秒以上通話が途切れたときも、自動的に通話が終了します。
②通話時間をオーバーしたとき	約2秒間の送信休止時間が自動的に設けられ、その後もう一度PTTスイッチを押して、相手を呼び出せば、通話できます。
③混信防止について（他局が交信しているとき）	送信/受信表示ランプが緑色に点灯しているときは、PTTスイッチを押しても、ビープ音が“プップップッ…”と鳴って送信状態になりません。 送信/受信表示ランプが消灯してから送信してください。
④交信範囲について	電波の届く範囲は、周囲の状況（建物や山など）により異なりますが、目安として見通しのよい郊外で1～2km、市街地で100～200mです。
⑤内蔵マイクロホンについて	送信して相手と通話するときは、普通に話す大きさの声で呼びかけてください。 マイクロホンと口との間（約5cmが適正間隔）が近すぎたり、大きな声を出したりすると、かえって明瞭度が低下しますのでご注意ください。
⑥通話のしかた	交信相手と交互に送受信を繰り返し、受信に移るときは、相手局を指名して「どうぞ」を付け加えると、円滑に通話できます。

5 セット機能による交信のしかた

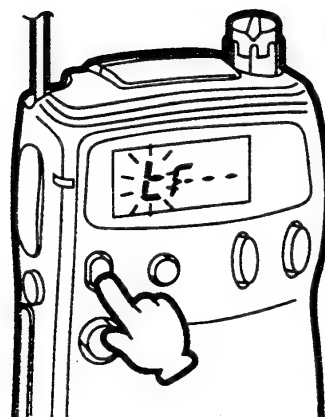
5−1 コードスケルチ機能について

コードスケルチ機能は、通話チャンネルとコード番号の一致した相手局の声だけしか聞こえなくなりますので、特定局またはグループ局との交信を行う場合に大変便利な機能です。
次項のグループ機能と併用することもできます。

1 セットモードにし、コードスケルチ機能を選択する

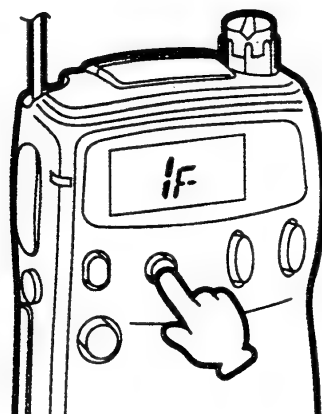
SETスイッチを約1秒以上押します。

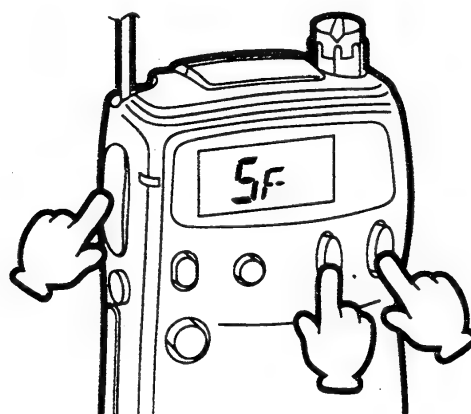
● ビープ音が“ピッピピ”と鳴って、セットモードとなり、コードスケルチ機能とグループ機能の設定表示になります。

2 コード番号を設定する

MEMOスイッチを押すごとに、コード番号が切り替わりますので、通話相手と決めたコード番号を設定します。

● コード番号は、oFF→A→B→C→…→I→J→oFFとエンドレスで切り替わり、押し続けると連続動作になります。
10通りの設定ができます。

3 セットモードを解除する

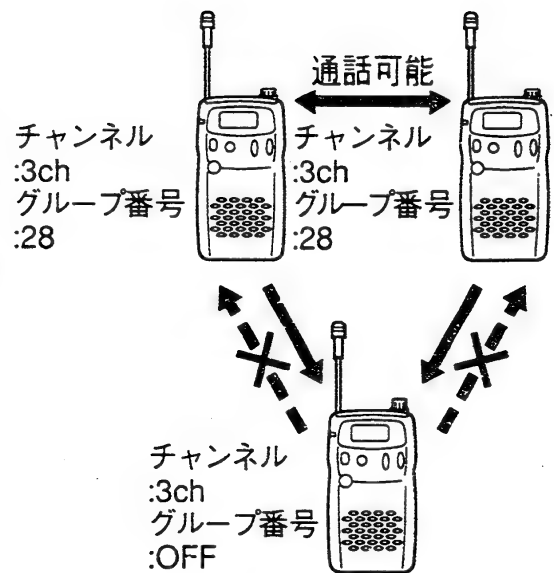
SETスイッチを3回押すと、セットモードを解除し、チャンネル表示に戻ります。

- ビープ音が“ピー”と鳴って、セットモードを解除し、コードスケルチ機能の運用ができます。

4 チャンネルを合わせ交信する

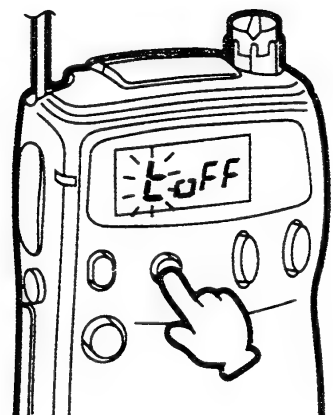
「交信のしかた」の3〜5を操作してください。（☞P8,9参照）

〈ご注意〉

- 通話チャンネルとコード番号が合っていないと通話できません。
- コードスケルチ機能を解除する場合は、1〜3を操作し、2の操作で“oFF”を選んでください。
- コードスケルチ機能による通話中でも、同じ通話チャンネルでの電波はすべて受信していますので、声は聞こえませんが送信/受信表示ランプは緑色に点灯します。
- コード番号をセットすると、1〜9チャンネルのどのチャンネルでも、コードスケルチ機能が設定されます。
  特定のチャンネルだけで、この機能を使用する場合はメモリーチャンネルに記憶させておくと便利です。（☞P31）
- 接続を確実にするために、ポケットビープ機能（☞P21）との併用をお薦めします。

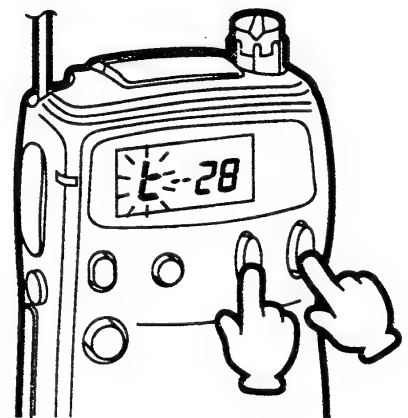
5−2　グループ機能について

グループ機能は、通話チャンネルとグループ番号の一致した相手局の声だけしか聞こえなくなりますので、特定局またはグループ局との交信を行う場合に大変便利な機能です。
前項のコードスケルチ機能と併用することもできます。

1　セットモードにし、グループ機能を選択する

SETスイッチを約1秒以上押します。

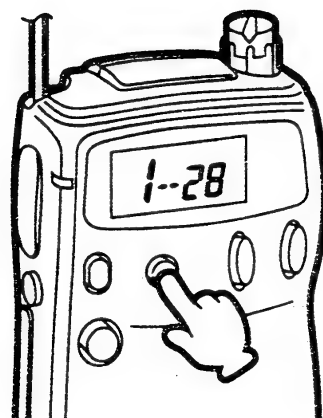
● ビープ音が"ピッピピ"と鳴って、セットモードとなり、グループ機能とコードスケルチ機能の設定表示になります。

2　グループ番号を設定する

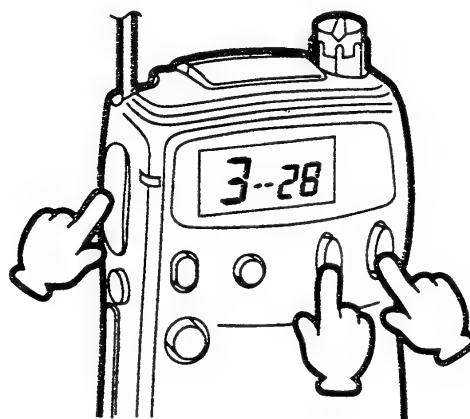
UPまたはDOWNスイッチを押すごとに、グループ番号が切り替わりますので、通話相手と決めたグループ番号を設定します。

● グループ番号は、oFF↔01↔02↔03↔…↔38↔SP(スペシャル)↔oFFとエンドレスで切り替わり、押し続けると連続動作になります。39通りの設定ができます。

※グループ機能は、IC-4003/4と互換性があります。

3 セットモードを解除する

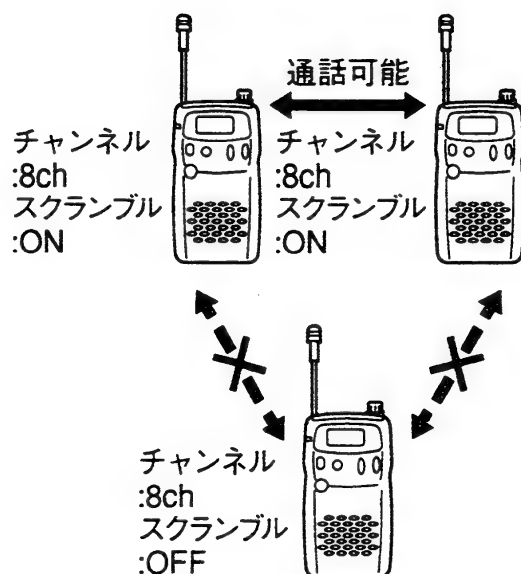
SETスイッチを3回押すと、セットモードを解除し、チャンネル表示に戻ります。

- ビープ音が“ピー”と鳴って、セットモードを解除し、グループ機能の運用ができます。

4 チャンネルを合わせ交信する

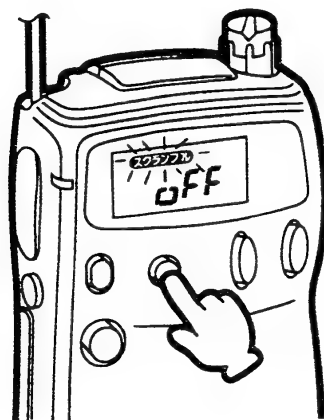
「交信のしかた」の3～5を操作してください。(☞P8,9参照)

〈ご注意〉

- 通話チャンネルとグループ番号が合っていないと通話できません。
- グループ機能を解除する場合は、1～3を操作し、2の操作で“oFF”を選んでください。
- グループ機能による通話中でも、同じ通話チャンネルでの電波はすべて受信していますので、声は聞こえませんが送信/受信表示ランプは緑色に点灯します。
- グループ番号をセットすると、1～9チャンネルのどのチャンネルでも、グループ機能が設定されます。
  特定のチャンネルだけで、この機能を使用する場合はメモリーチャンネルに記憶させておくと便利です。(☞P31)

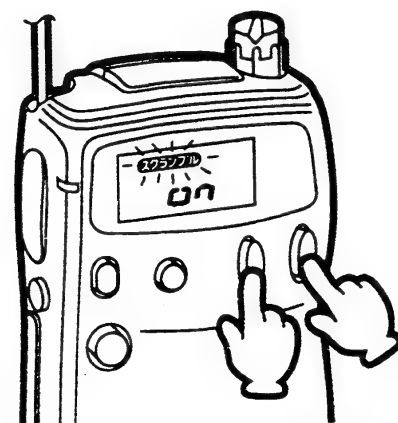
5-3 スクランブル機能について

スクランブル機能を入れていない相手には雑音として聞こえるだけで、通話内容を聞き取ることができなくなりますので、他の人に聞かれたくないときには便利です。
コードスケルチ機能/グループ機能と併用することができます。

1 セットモードにし、スクランブル機能を選択する

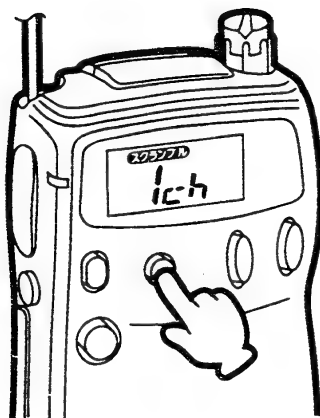
①SETスイッチを約1秒以上押します。
- ビープ音が"ピッピピ"と鳴って、セットモードの表示になります。

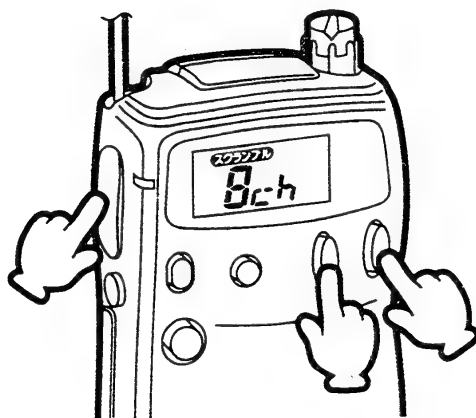
②SETスイッチを1回押すと、スクランブル機能の設定表示になります。
- ビープ音が"ピッ"と鳴って、スクランブル表示が点滅します。

2 スクランブル機能を"ON"にする

UPまたはDOWNスイッチを押すごとに、スクランブル機能が"ON/OFF"しますので、"on"を選択します。

※スクランブル機能は、IC-4004との互換性はありません。

3　セットモードを解除する

SETスイッチを2回押すと、セットモードを解除し、通常のチャンネル表示に戻ります。

- ビープ音が"ピー"と鳴って、セットモードを解除します。

4　チャンネルを合わせ交信する

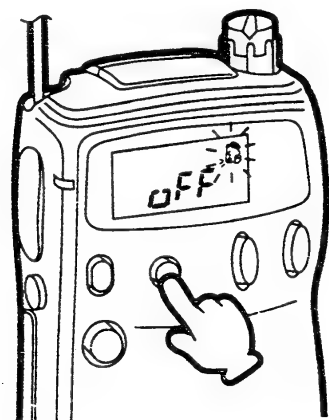
「交信のしかた」の3〜5を操作してください。(☞P8,9参照)

〈ご注意〉

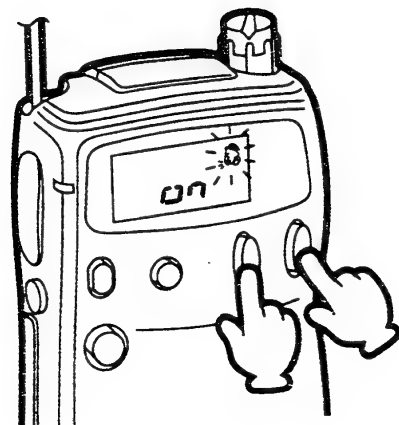
- 通話チャンネルとスクランブル機能の"ON/OFF"が合っていないと通話できません。
- スクランブル機能を解除する場合は、1〜3を操作し、2の操作で"OFF"を選んでください。
- 機密を要する重要な通話に使うことはお薦めできません。
  トランシーバー間の通話は電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に防ぐことはできませんのでご注意ください。
- スクランブル機能をセットすると、1〜9チャンネルのどのチャンネルでも、スクランブル機能が設定されます。
  特定のチャンネルだけで、この機能を使用する場合はメモリーチャンネルに記憶させておくと便利です。(☞P31)

5−4　コールエンド機能について

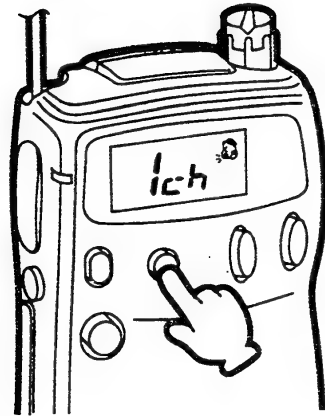
コールエンド機能は、電話のリンガー(呼び出し)音と同じようにベル音で通話相手を呼び出せる機能です。
また、通話の終わり(PTTスイッチを離すこと)に“ピー”というビープ音が鳴ります。
相手局も鳴りますので、通話の終わりを確認できます。

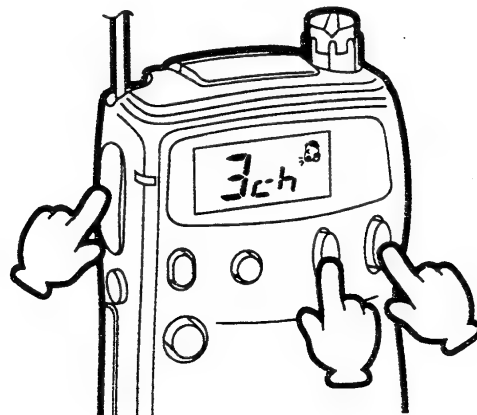
1　セットモードにし、コールエンド機能を選択する

①SETスイッチを約1秒以上押します。
● ビープ音が“ピッピピ”と鳴って、セットモードの表示になります。
②SETスイッチを2回押すと、コールエンド機能の設定表示になります。
● ビープ音が“ピッ”と鳴って、コールエンド表示が点滅します。

2　コールエンド機能を“ON”にする

UPまたはDOWNスイッチを押すごとに、コールエンド機能が“ON/OFF”しますので“on”を選択します。

3 セットモードを解除する

SETスイッチを1回押すと、セットモードを解除し、通常のチャンネル表示に戻ります。

- ビープ音が“ピー”と鳴って、セットモードを解除し、コールエンド機能の運用ができます。

4 チャンネルを合わせ交信する

通話チャンネルを合わせ、PTTスイッチを押すと、リンガー(呼び出し)音が鳴って、通話相手を呼び出します。
応答してきたら、「交信のしかた」にしたがって操作してください。
(☞P8,9参照)

〈ご注意〉

- リンガー音は、通話の初めに、1回だけ送出します。
  なお、約2秒間の休止時間を過ぎてPTTスイッチを押すと、再度リンガー音を送出することができます。
- 通話終了時のビープ音は、PTTスイッチを離す(OFF)ごとに、送出されます。
- コールエンド機能を解除する場合は、1~3を操作し、2の操作で“oFF”を選択してください。

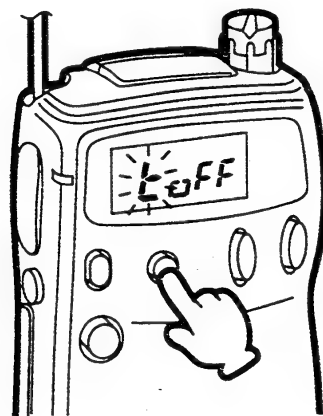
5−5　セット機能の併用について

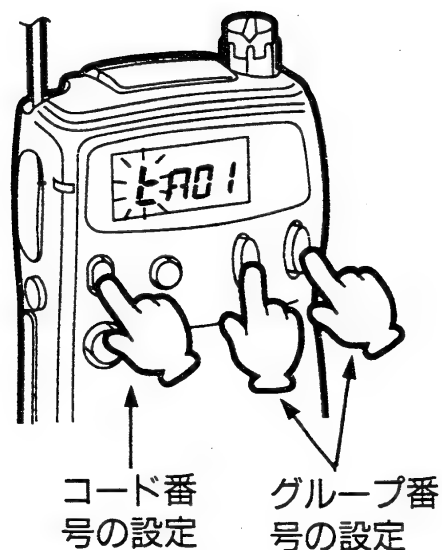
セットモードで設定された機能（コードスケルチ機能、グループ機能、スクランブル機能、コールエンド機能）は、それぞれ併用して使用することができます。

例.コードスケルチ機能とグループ機能の併用

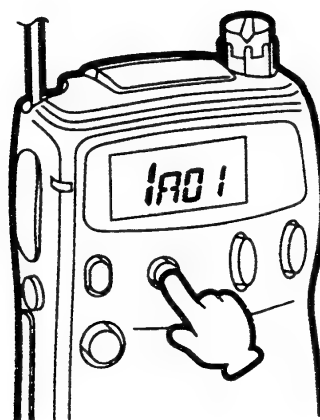
1　セットモードにし、コードスケルチ/グループ機能を選択する

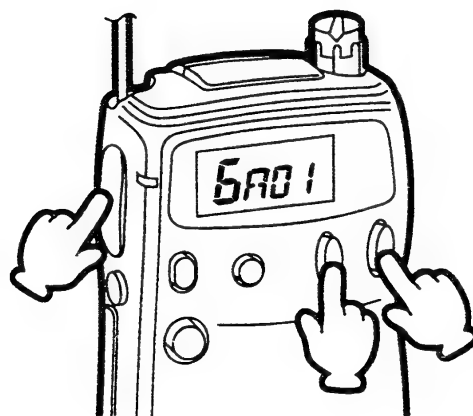
SETスイッチを約1秒以上押します。

● ビープ音が“ピッピピ”と鳴って、セットモードとなり、コードスケルチ/グループ機能の設定表示になります。

2　コード番号とグループ番号を設定する

①MEMOスイッチを押して、コード番号(A〜J)を設定します。
②UPまたはDOWNスイッチを押して、グループ番号(01〜38, SP)を設定します。
※必ず、通話相手と同じコード番号/グループ番号を設定してください。

3　セットモードを解除する

SETスイッチを3回押すと、セットモードを解除し、チャンネル表示に戻ります。

● ビープ音が“ピー”と鳴って、セットモードを解除し、コードスケルチ/グループ機能の併用ができます。

4　チャンネルを合わせ交信する

「交信のしかた」の3〜5を操作してください。（☞P8,9参照）

〈ご注意〉

- 通話チャンネルとコードスケルチ機能のコード番号/グループ機能のグループ番号が合っていないと通話できません。
- コードスケルチ/グループ機能の併用をセットすると、1〜9チャンネルのどのチャンネルでも、コードスケルチ/グループ機能の併用が設定されます。
  特定のチャンネルだけで、この機能を使用する場合はメモリーチャンネルに記憶させておくと便利です。（☞P31）

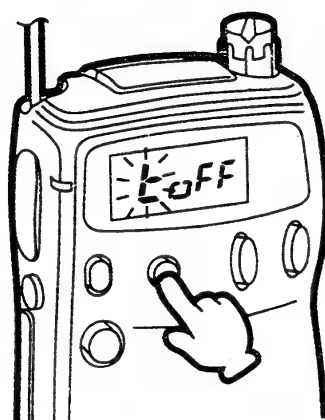
6 交信時に便利な機能

6−1 ポケットビープ機能について

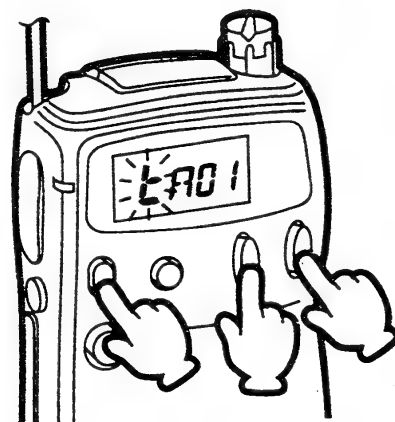
ポケットビープ機能は、前項のコードスケルチ機能またはグループ機能使用時(併用使用可)、通話(通話相手への接続)ができるか、できないかが自動的にわかる機能です。
また、呼び出しを受けると、リンガー音が鳴りポケットビープ表示が点滅しますので、呼び出しを受けたことが確認できます。

1 コードスケルチまたはグループ機能を選択する

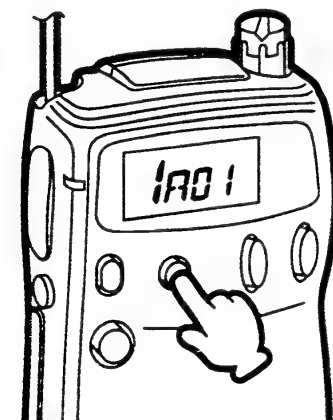
SETスイッチを約1秒以上押します。

- ビープ音が"ピッピピ"と鳴って、セットモードとなり、コードスケルチ/グループ機能の設定表示になります。

2 コード番号を設定する

MEMOスイッチを押して、コード番号(A〜J)を設定します。

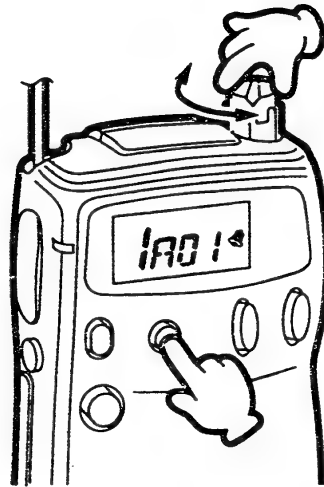
■グループ機能と併用する場合は、UPまたはDOWNスイッチでグループ番号(01〜38,SP)も設定してください。

3 セットモードを解除する

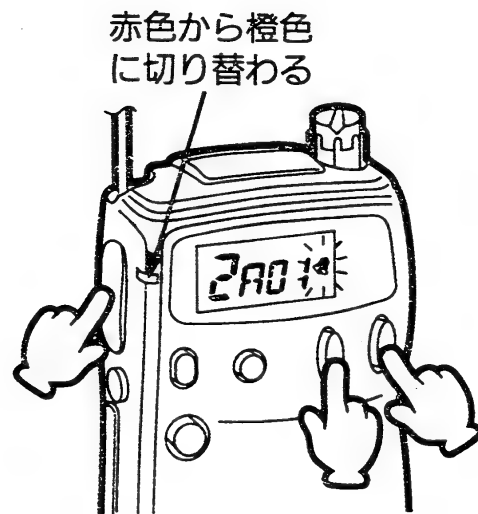
SETスイッチを3回押すと、セットモードを解除し、チャンネル表示に戻ります。

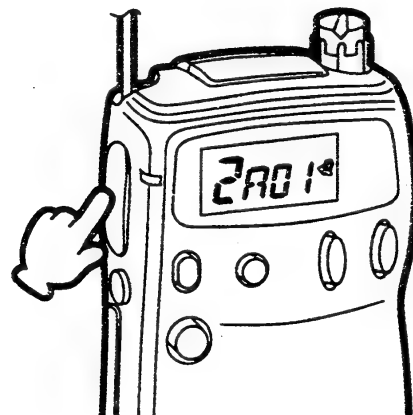
- ビープ音が"ピー"と鳴って、セットモードを解除します。

4 ポケットビープ機能を設定する

いったん電源を“OFF”にし、SETスイッチを押しながら、電源を“ON”にします。

● ビープ音が“ピピ”と鳴って、ポケットビープ表示が点灯します。

解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

5 通話チャンネルを合わせ、PTTスイッチを押す

PTTスイッチを押し、送信/受信表示ランプが赤色から橙色に切り替わってから、PTTスイッチを離します。相手局が通話範囲内であればリンガー音が鳴り、ポケットビープ表示が点滅します。
通話範囲外であれば、“プップップッ”のビープ音が鳴り、ポケットビープ表示は変化しません。

6 相手局が応答してきたら通話する

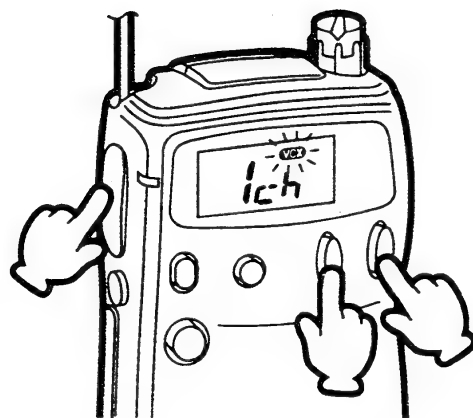
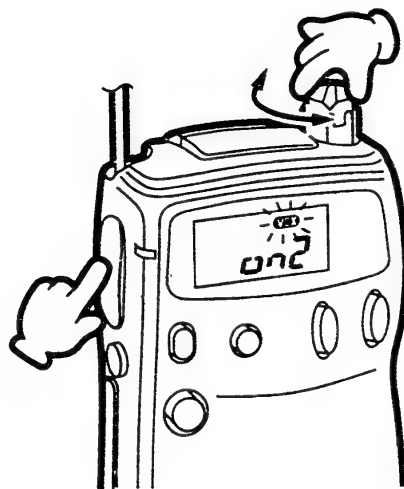
「交信のしかた」の4〜5を操作してください。(☞P9参照)
送信すると、ポケットビープ表示は点滅から点灯に切り替わります。
約2秒間の休止時間を過ぎて送信すると、5項の操作に戻ります。

6−2　VOX(ボックス)機能について

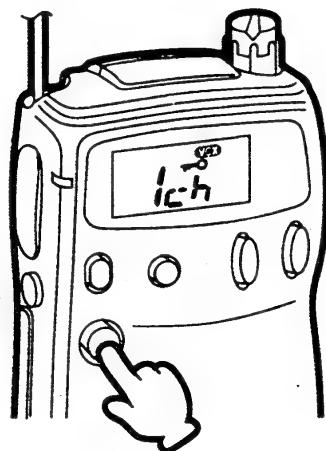
ボックス機能は、PTTスイッチを操作することなく、本体内蔵のマイクロホンから音声が入ると自動的に送信され、音声が無くなると受信に戻る機能です。

1　ボックス感度を設定する

①いったん電源を"OFF"にし、PTTスイッチを押しながら、電源を"ON"にします。
このときボックス感度の表示は、"oFF"または"on1〜on3"(前回の設定値)を表示し、VOX表示は点滅します。
さらに、PTTスイッチを押し続けながら、UPまたはDOWNスイッチを押して、ボックス感度を設定します。
通常はon2(初期設定値)を設定します

- ボックス感度は、oFF→on1↔on2↔on3↔on1とエンドレスで切り替わり、押し続けると連続動作になります。
- ボックス機能を解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

②ボックス感度を設定したら、PTTスイッチを離します。
チャンネル表示に戻り、VOX表示がゆっくりの点滅に切り替わります。

2 ボックス機能を“ON”にする

LIGHT/LOCKスイッチを約1秒以上押すと、VOX表示がゆっくりの点滅から、点灯に切り替わり、ボックス機能が動作状態になります。
再度、同じ操作を行うと、VOX表示がゆっくりの点滅に切り替わり、ボックス動作待ち状態に戻ります。

3 チャンネルを合わせ交信する

内蔵のマイクロホンに向かって、普通に話す大きさの声で話しかけると、自動的に送信となり、音声が途切れると約0.5秒後、受信に戻ります。

※先にUPまたはDOWNスイッチを押すと、ボックス機能により自動的に送信状態となり、リンガー音による呼び出しを行うことができます。詳しくは、「手動操作によるリンガー音の送出について」（☞P25）をご覧ください。

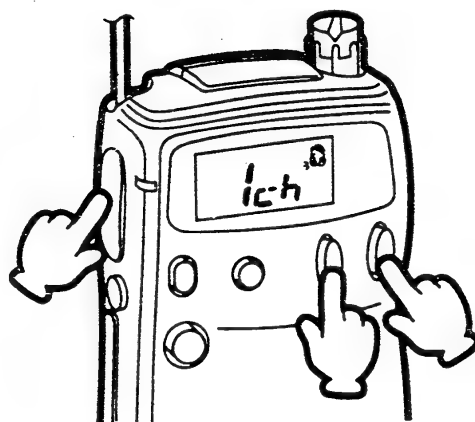
〈ご注意〉

- ボックス感度は、on1→on2→on3と数値が増えるほど感度が高くなります。
  雑音などの多い場所で使用される時は、外部雑音でボックス機能が誤動作しない範囲に、ボックス感度を設定してください。
- ボックス機能の動作中は、モニター機能、ポケットビープ機能は動作しません。
- 別売品のヘッドセット（HS-85など）に内蔵されているボックス機能を使用するとき、本機のボックス機能は“OFF”にしてください。

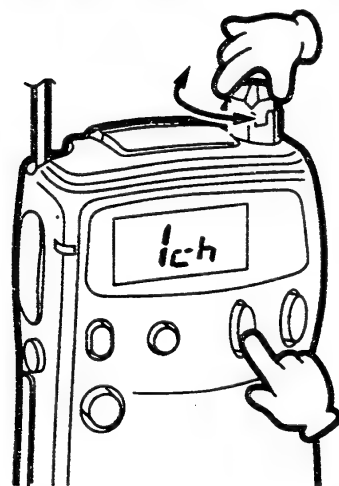
6−3　手動操作によるリンガー音の送出について

PTTスイッチを押しながら、UPまたはDOWNスイッチを押すと、手動で電話のリンガー(呼び出し)音と同じようにベル音で相手局を呼び出すことができます。

PTTスイッチを押しながら、UPスイッチを押すと、高音のリンガー音を送出します。
また、DOWNスイッチを押すと、低音のリンガー音を送出します。

- UPまたはDOWNスイッチを押すと、コールエンド表示が点灯し、スイッチを押している間、連続してリンガー音を送出します。

6−4　ビープ音オフ機能について

スイッチ操作時に鳴るビープ音を"ON/OFF"することができます。

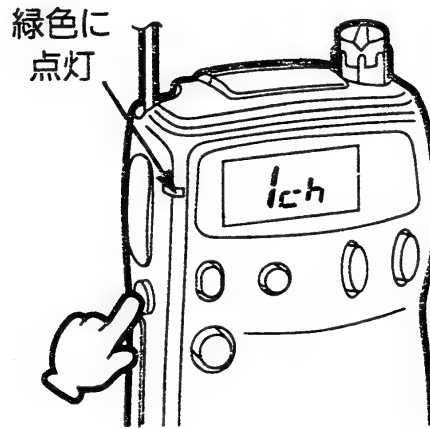
いったん電源を"OFF"にし、DOWNスイッチを押しながら、電源を"ON"にします。
解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

〈ご注意〉
通話終了時間10秒前のビープ音、通話終了時間後のビープ音、リンガー(呼び出し)機能のベル音、通話回線が接続できないときのビープ音、送信禁止のビープ音、バッテリー表示が点灯したときのビープ音は"OFF"を選択しても鳴ります。

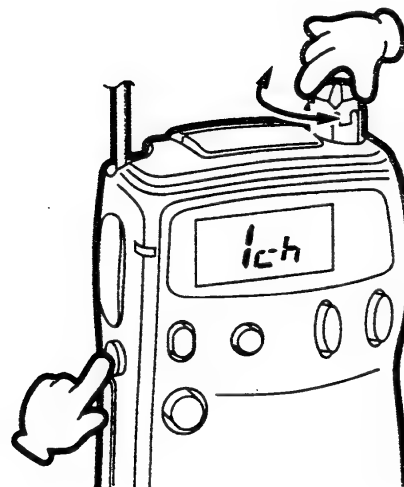
6−5　モニター機能について

相手信号が弱くて、受信音が途切れるような場合に使用します。
モニター機能を使用すると、コードスケルチ機能、グループ機能による通話を、モニターすることができます。
モニター機能には、一時的モニターと連続的モニターの2種類があります。

1　一時的にモニターするとき

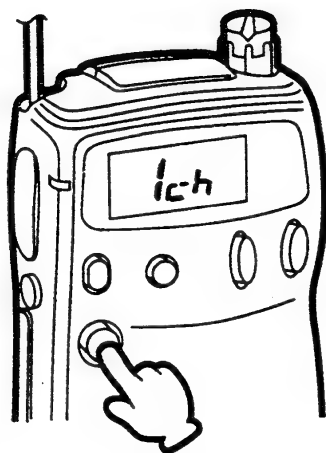
MONIスイッチを押してください。スイッチを押している間だけ、スケルチが開きモニターできます。

● モニター中は、送信/受信表示ランプが緑色に点灯します。

2　連続的にモニターするとき

いったん電源を“OFF”にし、MONIスイッチを押しながら、電源を“ON”にします。
いつもモニターしている状態になります。
この状態のとき、MONIスイッチを押すと、モニター機能が“ON/OFF”します。
連続モニターを解除するときは、電源をいったん切って、再度電源を入れてください。

6−6　ライト機能について

暗い場所で通話チャンネルの切り替えや確認をしたい場合に使用します。
ライト機能には、一時的ライティングと連続的ライティングの2種類があります。

1　一時的にライティングする

LIGHT/LOCKスイッチを1回押すとライトが点灯し、5秒後に自動消灯します。
点灯中にもう一度押すと、ライトは消灯します。

2　連続的にライティングする

いったん電源を"OFF"にし、LIGHT/LOCKスイッチを押しながら、電源を"ON"にします。
LIGHT/LOCKスイッチを1回押すごとに、"点灯/消灯"を繰り返します。
解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

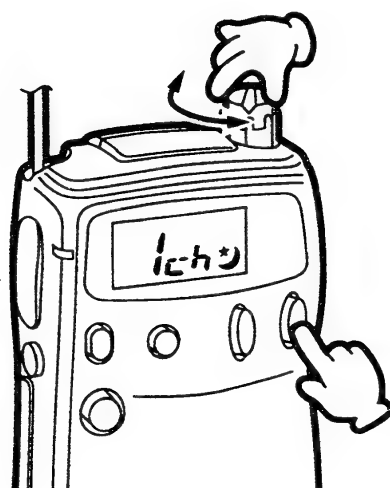
6−7　オートパワーオフ機能について

電源の切り忘れによる、電池の消耗を防ぐための機能です。
2時間以上スイッチを何も操作しなかったときは、自動的に電源が切れます。途中で操作したときは、その時点からさらに2時間のタイマーが動作します。

1　オートパワーオフ機能を設定する

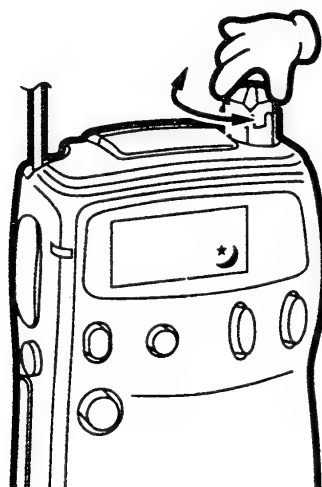
いったん電源を“OFF”にし、UPスイッチを押しながら、電源を“ON”にします。

- ビープ音が“ピピ”と鳴り、オートパワーオフ機能が動作します。

解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

2　オートパワーオフ機能により電源が切れる

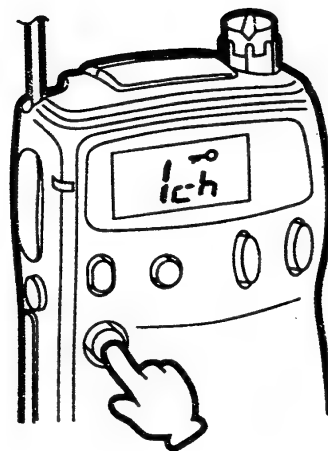
最後にスイッチを操作してから、2時間がすぎると、ビープ音が“ピピピピピッ”と鳴って、自動的に電源が切れます。

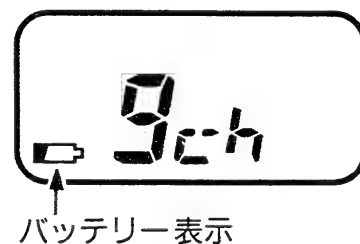
- オートパワーオフ表示だけが点灯します。

オートパワーオフ機能を持続したままの状態で、さらに運用したいときは、いったん電源を切って、もう一度電源を入れてください。

6−8　ロック機能について

通話中にまちがってスイッチを押しても、動作しないようにする誤動作防止機能です。

LIGHT/LOCKスイッチを約1秒以上押すと、ロック機能が動作します。
- ビープ音が"ピッ"と鳴って、ロック表示が点灯します。

ロック中にUPまたはDOWNスイッチ、MEMOスイッチ、SETスイッチを押しても、動作しません。解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

6−9　バッテリー表示機能について

電池の交換時期を表示する機能です。
ビープ音が鳴ってバッテリー表示が点灯したら、電源を切って、できるだけ早く電池を交換してください。(☞P3)

バッテリー表示

■使用時間の目安

(送信：1分/受信：1分/待ち受け：8分の割合で運用したとき)

電　池	使用時間
アルカリ電池	約50時間
マンガン電池	約20時間

※バッテリー表示の点灯時に受信音量を大きくしますと、ハウリングのような症状が発生することがありますがこれは異常ではありません。できるだけはやく新しい電池と交換してください。

メモリーの使いかた　7

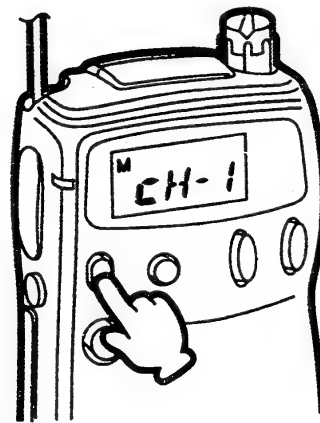
7−1　メモリーモードについて

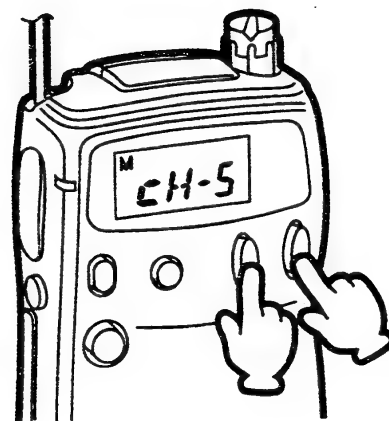
通話チャンネル、コードスケルチ機能、グループ機能、スクランブル機能、VOX(ボックス)機能、コールエンド機能などの設定状態を、メモリーチャンネルに記憶させることができます。
メモリーチャンネルは、5チャンネルあります。

7−2　メモリーチャンネルの呼び出しかた

1　メモリーモードにする

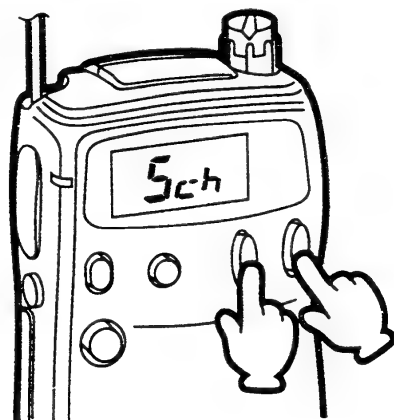
MEMOスイッチを押すと、メモリーモードになります。
- ビープ音が“ピピ”と鳴り、メモリー表示が点灯します。

再度、MEMOスイッチを押すと、チャンネル表示に戻ります。

2　メモリーチャンネルを呼び出す

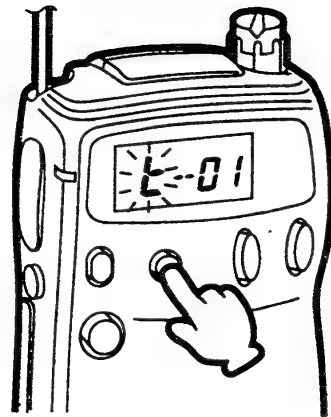
UPまたはDOWNスイッチを押すごとに、メモリーチャンネルが切り替わります。
スイッチを押すと、メモリーチャンネル表示となり、約1秒後にそのチャンネルに記憶している内容を表示します。
スイッチを押し続けると、連続で切り替わります。

7−3　メモリー(記憶)のしかた

例.通話チャンネル“5”に、グループ機能を設定し、メモリーチャンネル“3”に記憶させる場合

1　通話チャンネルを設定する

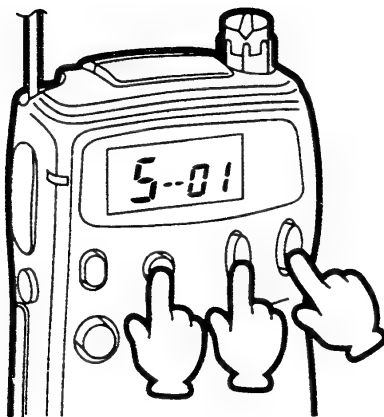
UPまたはDOWNスイッチを押して、チャンネル“5”を設定します。

2　セットモードにし、グループ機能を選択する

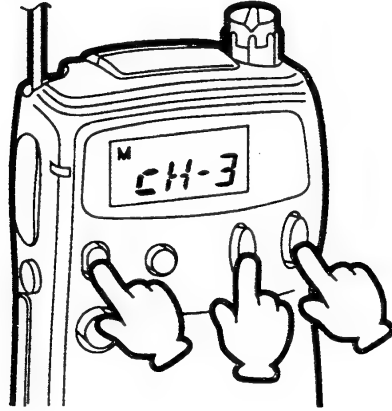
SETスイッチを約1秒以上押します。

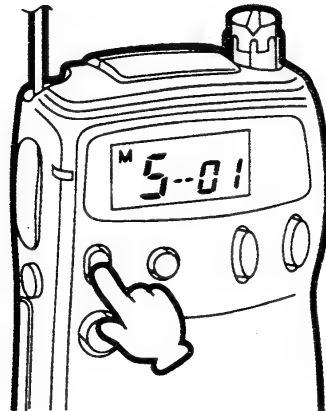
● ビープ音が“ピッピピ”と鳴って、セットモードとなり、コードスケルチ機能とグループ機能の設定表示になります。

3　グループ番号を設定し、セットモードを解除する

UPまたはDOWNスイッチを押して、通話相手と決めたグループ番号を設定します。

※詳しくは(☞P13)を参照

SETスイッチを3回押すと、セットモードを解除し、チャンネル表示に戻ります。

4 メモリーモードで、メモリーチャンネルを設定する

MEMOスイッチを押して、メモリーモードにします。
UPまたはDOWNスイッチを押して、メモリーチャンネル"3"を設定します。

5 メモリー(記憶)させる

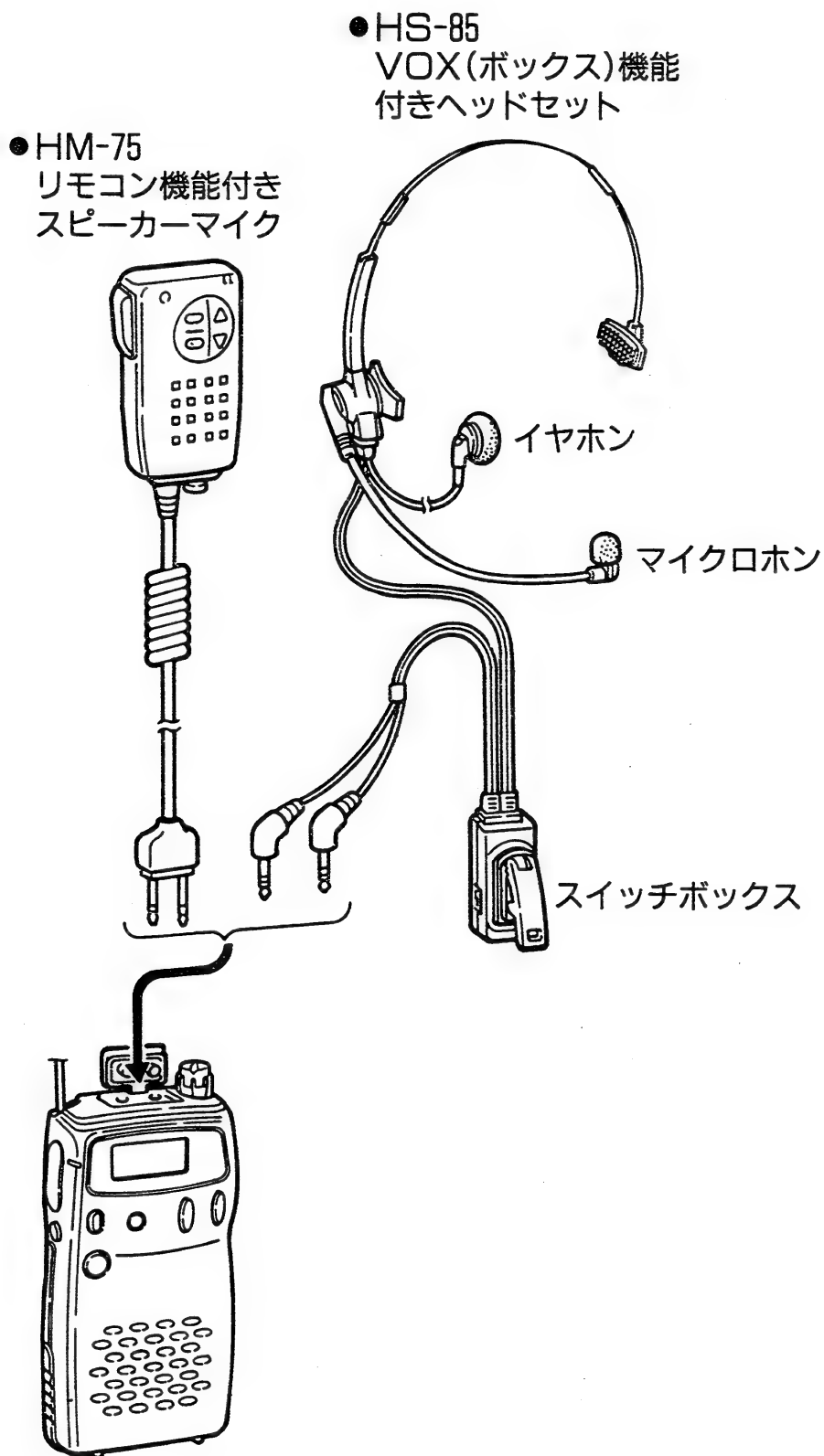
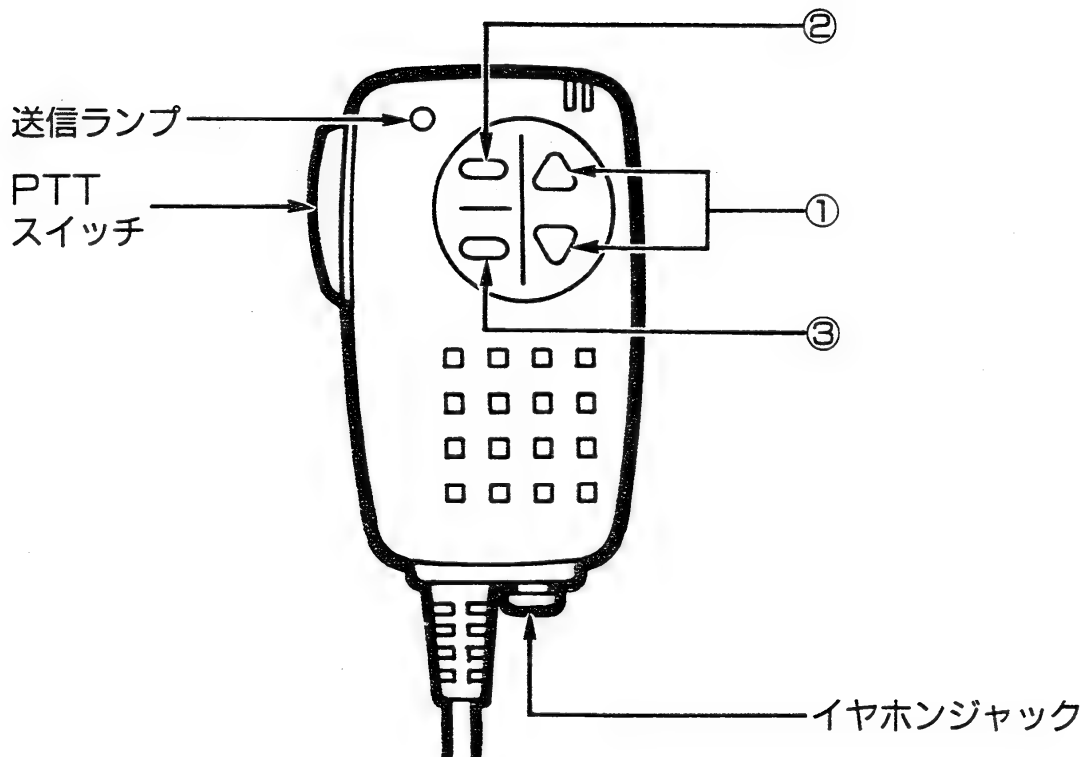
MEMOスイッチをビープ音が"ピッピーピピ"と鳴るまで押します。

〈ご参考〉

- コードスケルチ機能の設定は(☞P11)を参照してください。
- グループ機能の設定は(☞P13)を参照してください。
- スクランブル機能の設定は(☞P15)を参照してください。
- コールエンド機能の設定は(☞P17)を参照してください。
- VOX(ボックス)機能の設定は(☞P23)を参照してください。

- 上記の機能をセットすると、1~9チャンネルのどのチャンネルでも、上記の機能が設定されます。
  特定のチャンネルだけで、この機能を使用する場合はメモリーチャンネルに記憶させておくと便利です。

8　ご参考に

8－1　別売品について

■HM-75/HS-85の接続のしかた

■HM-75の使いかた

①△/▽(アップ/ダウン)スイッチ

通常のチャンネル、メモリーモード時のメモリーチャンネルをアップまたはダウンします。
また、セット機能の内容設定、リンガー送出操作なども行うことができます。

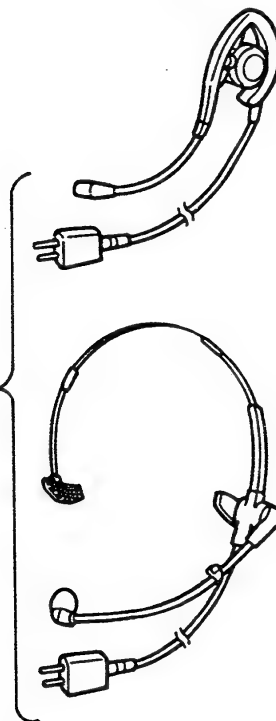
②Aスイッチ

MEMO(メモリー)スイッチ動作となり、通常チャンネルとメモリーモードを切り替えます。

③Bスイッチ

MONI(モニター)スイッチ動作となり、モニター機能を"ON/OFF"します。

※裏面には、LOCK(ロック)スイッチがあり、①△/▽スイッチ、②Aスイッチ、③Bスイッチの機能を無効にします。
※HM-75を接続または取り外すときは、本体の電源を切ってから行ってください。

■HM-74/HS-71/HS-72/HS-66の接続のしかた

HM-74を接続すれば、HM-74のPTTスイッチで送信できます。
また、HS-71とHS-66(またはHS-72)を接続すれば、PTTスイッチを操作することなく、音声が入ると自動的に送信され、音声が無いときは受信になります。
(VOX(ボックス)機能動作)

8−2　アフターサービスについて

■保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」(☞P38)にしたがってもう一度お調べいただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

●保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

●保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

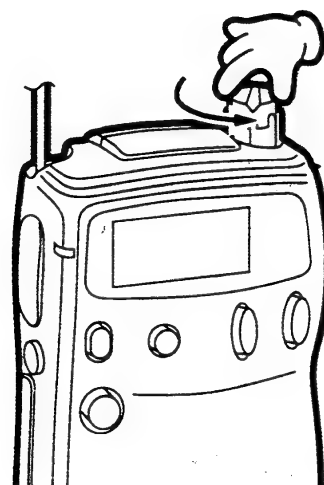
■アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社営業所サービス係にお問い合わせください。

8−3　故障かな?と思ったら

次ページのような症状は故障ではないことがありますので、修理依頼の前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときはリセットし、工場出荷時の初期状態に戻してみてください。

1　いったん電源を切る

電源スイッチ/音量ツマミを反時計方向に回します。

2　リセットする

UPスイッチとDOWNスイッチを同時に押しながら、電源スイッチ/音量ツマミを時計方向に回して、電源を入れます。
- すべての表示が約2秒間点灯し、1chだけの表示に戻ります。

電源が入らない	⑴電池の極性間違い ⑵乾電池の消耗	⑴極性を確認して入れなおす　(☞P3) ⑵乾電池を入れ換える　(☞P3)
表示が変化しない	ロック機能がはたらいている	LIGHT / LOCKスイッチを約1秒以上押して、ロック機能を解除する　(☞P29)
“プップップッ…”と鳴って、送信できない	⑴通話制限時間(3分)を経過している ⑵他の局が送信しているため、混信防止機能が動作している	⑴送信休止時間(約2秒間)を設け、もう一度送信する　(☞P10) ⑵送信/受信表示ランプが消灯してから送信する　(☞P10)
相手と通話できない	⑴相手と通話チャンネルが違っている ⑵相手とグループ機能の設定が違っている ⑶相手とコードスケルチ機能の設定が違っている ⑷相手とスクランブル機能の設定が違っている ⑸相手との距離が離れすぎている ⑹アンテナが完全に引き出されていない	⑴通話チャンネルを合わせる　(☞P8) ⑵グループ機能の設定を合わせる(☞P13) ⑶コードスケルチ機能の設定を合わせる　(☞P11) ⑷スクランブル機能の設定を合わせる　(☞P15) ⑸場所を変えて通話する　(☞P10) ⑹アンテナを完全に引き出す　(☞P4)
声が聞こえないのに送信/受信表示ランプが緑色に点灯する	グループまたはコードスケルチ機能を使っていないか、他のコード番号またはグループ番号で通話しているグループがいる	他の通話チャンネルに移る　(☞P11，13)

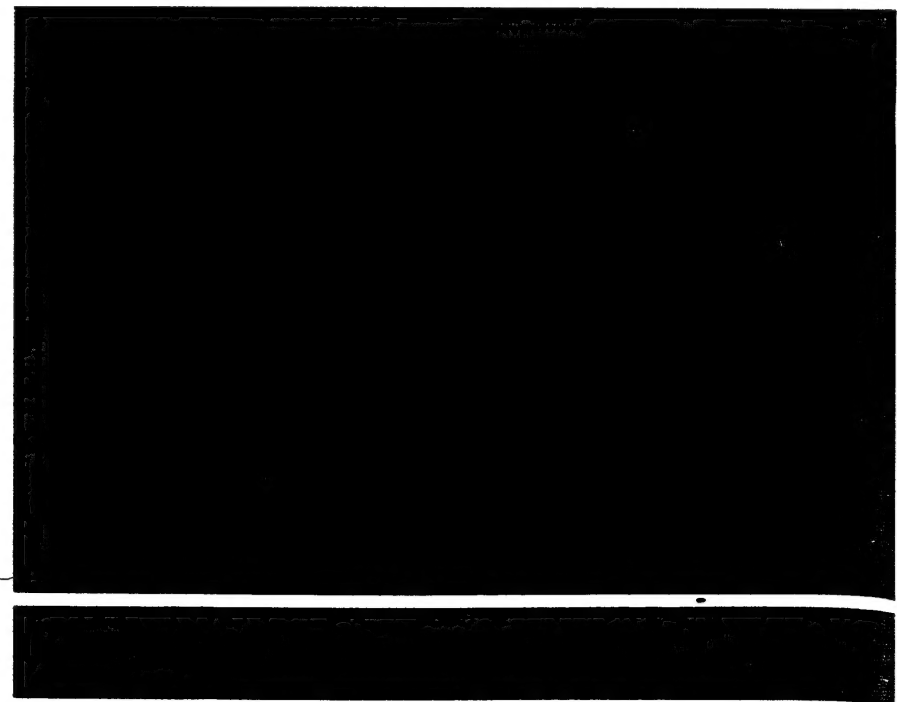
8-4 定　格

送受信周波数	422.2000～422.3000MHz
チャンネル間隔	12.5kHz
チャンネル数	9チャンネル
電波型式	F3E(8K50F3E〈呼び出し符号はF1D〉)
周波数安定度	±4ppm(－10℃～＋50℃)
使用温度範囲	－10℃～＋50℃
電源電圧	DC4.5V(乾電池動作) 送信時：約70mA 受信待ち受け時：約60mA 受信最大出力時：約140mA パワーセーブ時：約23mA
送信出力	10mW
低周波出力	100mW (4.5V時/8Ω負荷/10%歪時)
変調方式	周波数変調
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	－8dBμ以下(EMF) (12dB SINAD)
外形寸法	102.5(高さ)×55.5(幅)×27.5(奥行)㎜ 突起物は除く
重量	約172g(乾電池を含む)

8−5　別売品の一覧表

HM-74	スピーカーマイク
HM-75	リモコン機能付きスピーカーマイク
HS-66	耳掛けタイプヘッドセット(運用にはHS-71が必要)
HS-71	VOX(ボックス)機能付きスイッチボックス
HS-72	ヘッドセット(運用にはHS-71が必要)
HS-85	VOX(ボックス)機能付きヘッドセット

高品質がテーマです。

A-5334S-1J

アイコム株式会社

本　　　社	547	大阪市平野区加美東6丁目9－16	
北海道営業所	060	札幌市中央区大通東9丁目14	TEL(011)251-3888
仙台営業所	982	仙台市若林区若林1丁目13－48	TEL(022)285-7785
東京営業所	130	東京都墨田区緑1丁目22－14	TEL(03)5600-0331
名古屋営業所	466	名古屋市昭和区長戸町2丁目16－3	TEL(052)842-2288
金沢出張所	921	金沢市高畠1丁目335	TEL(0762) 91-8881
大阪営業所	547	大阪市平野区加美南1丁目8－35	TEL(06)793-0331
広島営業所	733	広島市西区観音本町2丁目10－25	TEL(082)295-0331
四国営業所	760	高松市塩上町2丁目1－5	TEL(0878) 35-3723
九州営業所	815	福岡市南区塩原4丁目5－48	TEL(092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。